



# 第28回 日本医学会総会 2011 東京

2011(平成23)年 4月8日(金)~10日(日)

[学術講演案内]



いのちと  
地球の未来をひらく  
医学・医療

— 理解・信頼そして発展 —

2-S-6  
シンポジウム

# 大腸癌の内視鏡的治療と化学放射線療法

司会

**工藤進英**

昭和大学横浜市北部病院  
消化器センター



司会

**名川弘一**

労働者健康福祉機構



4/9  
(土)

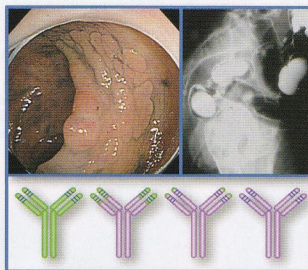
9:00~10:30

第20会場 丸ビルホール&コンファレンススクエア 丸ビルホール

## 司会のことば

大腸癌に対する治療は、ここ数年で格段に進歩してきた。早期大腸癌に対しては、内視鏡を用いた治療が主流となってきている。現在、最も脚光を浴びているのがESD (Endoscopic Submucosal Dissection: 内視鏡的粘膜下層剥離術) と呼ばれる内視鏡手術である。これには内視鏡診断に関する長年の研究の蓄積が基盤となっており、この分野では日本は世界のトップランナーである。一方、進行大腸癌に対する治療も日進月歩である。下部直腸に生じた進行癌に対する術前化学放射線療法は、側方リンパ節郭清の意義を見直す意味で、日本独自の発展を遂げてきた。また、再発あるいは転移をきたした大腸癌に対する化学療法の進歩も目覚ましく、腫瘍縮小効果の高い薬剤の開発も次々に行われている。本シンポジウムでは、この分野で活躍している方々に最近の話題を中心ににご発表いただく予定である。

- 1 早期大腸癌内視鏡治療の最前線  
田中信治 広島大学内視鏡診療科
- 2 大腸腫瘍に対する内視鏡診断と治療  
藤井隆広 藤井隆広クリニック
- 3 直腸癌に対する術前化学放射線療法  
渡邊聡明 帝京大学外科
- 4 転移性大腸がんに対する全身性化学療法  
島田安博 国立がん研究センター中央病院消化器内科



2-S-7  
シンポジウム

# 感染とがん—いま注目される関係

司会

**小池和彦**

東京大学大学院  
医学系研究科  
消化器内科学



司会

**畠山昌則**

東京大学  
医学系研究科  
微生物学講座



4/9  
(土)

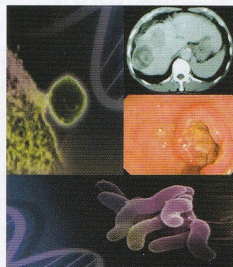
10:30~12:00

第20会場 丸ビルホール&コンファレンススクエア 丸ビルホール

## 司会のことば

特定の感染症と発がんとの関連性が、臨床と基礎の両面から十分な証拠をもって示される様になり、「予防できるがん」としてクローズアップされてきている。それらの感染性病原体としては、ヒトT細胞白血球ウイルス、B型、C型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス等のウイルスとヘリコバクター・ピロリ等の細菌が知られている。これらの感染性病原体は持続感染し、長期間を経て感染者の一部だけが発がんに至る。感染から発がんに至るまでの経路は長く複雑であるが、それぞれの病原体-宿主間相互作用が細胞がん化を促す役割が次第に明らかとなってきている。本シンポジウムでは、ピロリ菌感染における胃がん発生、ウイルス肝炎における肝がん発生、ヒトパピローマウイルスによる子宮頸がん等の発生について、臨床と基礎の両面からお話いただく予定である。

- 1 ピロリ菌除菌による胃癌予防の可能性  
浅香正博 北海道大学第三内科
- 2 ピロリ菌による胃癌発症機構  
畠山昌則 東京大学医学系研究科微生物学講座
- 3 肝炎ウイルスと肝がん  
小池和彦 東京大学大学院医学系研究科消化器内科学
- 4 ヒトパピローマウイルスとがん  
清野 透 国立がん研究センター研究所ウイルス部



- 特別講演
- 記念企画  
特別企画
- 先端医療  
医学
- がん
- 再生と  
再生
- こころ  
精神
- 循環と  
呼吸
- からだの  
細胞と  
代謝
- 運動と  
感覚
- 生殖と  
小児医療
- 血液と  
免疫
- 感染症の  
診断と  
対策
- 中央診療  
部門の  
最新情報
- 歯と口腔  
の健康
- チーム  
医療
- 社会と  
医療
- 医療と  
倫理
- 健康社会  
の理想
- 高齢社会
- 医師の  
働き方と  
未来
- 医療と  
IT
- 産科医学  
研究  
セッション